



今後の水管理・追肥について

◆ 中干し期間と中干し終了後の水管理

今年の生育状況は、6月の低温・日照不足により、しんせい管内平均で、4日程度遅れております。その為、中干し開始時期が遅くなっておりますが、遅くとも11葉期(幼穂形成期)までには終了して下さい。また、過度の中干し(乾かしすぎ)は無いと思いますが、稲の根を切ることとなりますので注意願います。中干し終了後の水管理については通常、間断かん水とし、土壤に水分と酸素を交互に供給して稲体の活力を維持しますが、天候を見ながら対応するようにしましょう。

◆ 低温・高温時の水管理

幼穂形成期から減数分裂期にかけては稲の体内で幼穂が形成・発育する上で最も重要な時期です。とくに、幼穂形成期～穂ばらみ期にかけては、気象変化に対して敏感になるため注意が必要です。

・低温の場合

低温(最低気温が17℃以下)が続くときは、深水にして幼穂を保護して下さい。
 (障害不稔、白ふ発生、着粒数不足を防ぐ)

・高温の場合

水の入れ替え・かけ流しを行い、稲体・根の強化を図って下さい。
 (乳白粒の発生、水分ストレスによるクサビ米の発生を防ぐ)



◆ 追肥について

品質・食味・収量の向上を図るため、生育量(栄養診断)に合わせた適期適量の追肥を行って下さい。例年、穂肥(減分期)の施用日が適期より遅れている傾向があるため、適期適量を施用しましょう。

◎ 11葉期(幼穂形成期)の生育の目安

(N成分量/10a)

品種	葉色	草丈 (cm)	生育量	m ² あたり茎数 (本)	幼穂形成期 11.0~11.5葉期 (幼穂0.1~0.5cm)	減数分裂期 12.5葉期 (幼穂5.0~8.0cm) 葉耳間長±0cm
あきたこまち	葉色値 38-42 (スケール) 5番前後	55-65	不足	~480	1.0kg以内	1.0~1.2kg
			やや不足	480~520		
			目標値	520~540		
			やや過剰	540~570		
			過剰	570~630		
ひとめぼれ	葉色値 36-40 (スケール) 5番前	55-65	不足	~510	1.0kg以内	1.0~1.2kg
			やや不足	510~550		
			目標値	550~570		
			やや過剰	570~600		
			過剰	600~650		
つぶぞろい (暫定値)	葉色値 36-40 (スケール) 5番前	60-64	不足	~460	1.0~1.2kg以内	1.0kg
			やや不足	460~500	0.5~1.0kg以内	
			目標値	500~540		
			やや過剰	540~570	なし~0.5kg以内	
			過剰	570~630	なし	

※上表を標準としますが、生育量が適正範囲でも葉色が濃い場合は追肥量を減じてください。

◎追肥の種類

(10aあたり)

窒素成分量 / 現物量	しんせい穂肥1号 (15-4-15)	尿素複合212 (20-10-20)	追肥化成656 (16-5-16)	しんせい穂肥535 (15-3-15)
窒素成分量 0.5kg	3.4kg	2.5kg	3.2kg	3.4kg
〃 0.8kg	5.3kg	4.0kg	5.0kg	5.3kg
〃 1.0kg	6.7kg	5.0kg	6.3kg	6.7kg
〃 1.2kg	8.0kg	6.0kg	7.5kg	8.0kg
窒素の形態	尿素・硫安・磷安	尿素系	塩安系	硫安・磷安
肥料の特性	腐植有機10%含む。 大粒で撒き易くよく飛ぶ。	肥効が長い。	露があると葉ヤケするので注意(夕方散布する。速効性)。	持続性のある尿素を含む。

※基本的に、**緩効性肥料**(基肥まくモンなど)を使用している場合は追肥の必要はありません。

◆ 倒伏対策について

左の生育の目安で過剰となる場合は中干しを強めに行いますが、倒伏が懸念される場合は下記の倒伏軽減剤を使用して下さい。使用方法等はJA営農センターへご相談下さい。

薬剤名	使用基準 (10アールあたり)	回数	散布時期	注意点
ロミカ粒剤	2~3kg (湛水散布)	1回	出穂25~10日前	重複散布や多量散布は、後作物に影響する場合があります。
ビビフル粉剤DL	3~4kg	1回	出穂10~5日前	ムラになりやすいので均一に散布する
ビビフルフロアブル	75~100mL/ 水50~150L	1回	出穂10~2日前	走り穂が出る頃まで散布可能

病害虫防除について

天候次第ではいもち病や稲こうじ病、紋枯病が発生しやすくなります。とくに前年発生した圃場は下記の薬剤にて防除して下さい。

病害名	薬剤名	倍率	使用基準/10a	散布時期
紋枯病	モンセレン粉剤DL	-	3~4kg	出穂直前~穂揃期
	モンセレンフロアブル	1500倍	-	
いもち・稲こうじ病	ラブサイドベフラン粉剤DL	-	3~4kg	出穂10~20日前
稲こうじ病	Zボルドー粉剤DL	-	3~4kg	
紋枯れ・稲こうじ病	モンガリット粒剤	-	3~4kg	出穂10~20日前

秋田県発表の病害虫発生予察情報によると、今年も斑点米カメムシ類は多いと予想されております。

7月10日から20日まで統一草刈り期間ですので農道・畦畔等の草刈りを行うとともに、水田内の除草もあわせて行って下さい。また、7月21日(木)~8月末日まで草刈り禁止期間となります。

※但し、8月の無人ヘリ防除直後から7日以内に、圃場周り(農道・畦畔)は草刈りして下さい。

